

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 / 2階,3階)

事業所番号	2795000518		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホーム みさき瓢箪山		
所在地	大阪府東大阪市喜里川町10-2		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が立ち上げた委員会の中で、事故対策委員会、感染対策委員会、虐待・身体拘束廃止委員会、災害対策委員会の活動を行い、介護の質の向上に取り組んでいます。  
 常勤、非常勤職員によってご利用者様へのサービス提供内容を区別せず、ご利用者様への質の高いサービスを目指し、満足度の高いサービスを提供していくことに結び付けたいと思っています。  
 高齢者の楽しみの一つである食事面のサービス向上のため、食事レクを季節毎に行っています。  
 季節に合わせた食事メニューを選び、季節感を感じていただければと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体「榊美咲」は大阪府下を中心に京都、兵庫、和歌山、神奈川県に13のグループホームと小規模多機能・有料老人ホームを運営している。当事業所は最寄駅から徒歩10分の閑静な住宅地に平成26年2ユニットで開設された。コロナ禍により、外出、面会、地域交流など我慢の日々が続いているが、「行事よりも食べる方がいい」という利用者の意向を大切に食事支援を積極的に行っている。その様子を事業所便りにコメントを添え毎月家族に送付している。面会制限時には、利用者が窓から顔を出して話す面会を実施し、心のこもった対応に感謝の声がある。職員は利用者を楽しんでもらうことを心掛け、チームワークを大切に利用者個々に応じたケアを行っている。本年1名の看取りを行ったが、法人の理念である「みさきで過ごせて本当に良かった」の言葉を家族から受けることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関、スタッフルームに掲示している。 事業所の理念「みんなで ささえあい きもちをこめて」を玄関、スタッフルームに掲示し、毎日のケアに繋げている。	法人理念『ご利用者様にとって「第二の家族」のような存在～人生の最終章を「みさきで過ごせて本当に良かった」と想っていただけるような介護サービスの提供～」と事業所理念を玄関とスタッフルームに掲示し、円滑なコミュニケーションを図り、日常ケアを振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、広報の新聞や敬老の日に品をいただいている。	事業所と利用者全員が自治会に入っている。毎年敬老大会に参加しイベントを楽しみにしていたが、本年は中止となり、景品をもらうのみとなった。コロナ禍前は事業所1階を地域のために開放し、地域地域包括支援センター主催のセミナーや映画会を行うなど地域住民との交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方に差し支えない程度で情報をいただき、実践を通じた支援方法を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため会議は中止し、2ヶ月に1回地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民に書面を配布している。 事業所の現状報告や行事案内をしている。	会議は偶数月の第4土曜と定例化し、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、利用者・家族、管理者の参加により行っているが、昨年の緊急事態宣言発令後はすべて書面開催になっている。運営状況、行事報告、事故報告等を行い、議事録は1階玄関に開示し、メンバーには送付している。	書面開催が続いており、相互の意見交換は難しい状況である。会議開催の告知時にアンケート等で意見やアドバイスをもらい、サービス向上に活かすことを期待する。また、家族の来訪も減っているので、議事録は家族全員に送付することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の申請代行のため、東福祉事務所と連絡を取っている。	市の担当者とはコロナワクチン接種の案内を受けたり、接種予定者の人数や状況報告を行っている。生活保護受給者のインフルエンザの予防接種の経費負担についての相談等でも連絡を取り合っている。地域包括支援センターには運営推進会議により、運営状況を知ってもらい、協力関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・身体拘束廃止委員会で研修を行っている。また、身体拘束排除宣言を掲示している。玄関は防犯上、安全上のため施錠しているが、希望があれば開錠するようにしている。	身体拘束適正化の指針を作成し、3ヶ月ごとに委員会を開催し、議事録は全員に回覧している。研修は委員会終了後を勉強会を年2回行い、自己チェックシートを基に話し合い、同様に全員に回覧している。玄関とユニット入り口は安全のため施錠している。センサーを使用している利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束廃止委員会の活動内で研修を行い注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料をファイリングし、スタッフルームにて職員が閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明後に疑問点を尋ね、十分理解いただけるよう努めている。改定の際は、同意書に署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けている。毎月、「みさき瓢箪山新聞」と「生活のご様子」で利用者の様子やコメントを送付し、お知らせしている。	意見箱を玄関に設置しているが、職員は話しやすい雰囲気大切にしている。家族アンケートでも意向を理解してくれる、相談に乗ってくれる、優しく、気持ちの良い対応であるなど満足度は高い。苦情・相談記録があり、内容、対応、結果を記録し、全員に回覧し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からの業務連絡はメールや電話で受けており、必要であれば伝達ノートで職員に知らせている。 職員会議を不定期で行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員が意見を述べる機会として職員会議を設けているが、日常的には直接管理者と話すことが多い。フロアでの問題発生時はリーダーが中心となってフロア会議を開き管理者と話し合うようにしている。管理者は職員が働きやすい環境を整えることを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	土日出勤ができるかどうかなど勤務状況により、処遇改善額を利用し区別している。 委員会を担当する職員には委員会手当をつけ、やりがいなどの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、資格取得の助成制度を設けている。 これを利用し、資格取得した職員がいる。 勉強会を毎月開催し、働きながらトレーニングできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に家族等から情報を収集し、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やショートメッセージを利用し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談で知り得た情報を計画作成担当者に伝え、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗い物や片付けなどを共に行ったり、清掃を職員と共に行っている。 職員が忙しくしていると手伝ってくれたり、支えあう関係はできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より問い合わせがあれば、近況を報告しながらコミュニケーションをとるようにしている。 毎月、ご家族に1ヶ月の様子を伝えるお便りを送付し、行事等の案内を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止している。	利用者の生き立ち、生活歴全般の把握は入居時の利用者・家族への聞き取りにより行っているが、年明けの外泊や初詣などで馴染みの場所に出かけることは難しい状況である。緊急事態宣言解除後は利用者の娘、義弟の来訪があり、事業所は積極的に支援している。孫から手紙と写真が送られてくる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないよう努めている。 食事レクでは、利用者に手伝ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族より問い合わせがあれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活歴等を確認し、本人やご家族の意向を踏まえて支援している。 日々のコミュニケーションの中で希望や意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向は、マンツーマンでの入浴時や落ち着いて傾聴できる時に聞いている。把握した内容は伝達ノートや個人別の申し送りノートに記載し、職員間共有している。 日向ぼっこの好きな利用者は、リビングのソファの位置を好きな方向に動かし、快適空間を作っている。職員は静かに見守るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を確認し、本人やご家族の意向を踏まえて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や日報で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。介護保険の更新及び状態が変わった時は見直しを行っている。	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月とし、利用者・家族の要望を踏まえ、生活記録、往診ファイル、訪問看護日誌、申し送りノートにより介護計画を作成している。モニタリングは3カ月ごとに行い、サービス担当者会議は医師、看護師の意見を参考に計画作成担当、管理者、職員により行っている。家族への説明は計画作成担当がメールにて行い郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、情報共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の把握に努め、柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車いすやラバーシートが必要な際、地域にある介護用品店を利用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居契約時に希望を聞き、かかりつけ医を決めている。 歯科、眼科については希望者のみ往診を受けてもらっている。 他科受診はご家族に同行してもらっている。	利用者1名は専門病院に通院しているが、他は協力医の往診を受けている。歯科は全員週1回の訪問診療を受け、皮膚科や検査時は家族が付き添いで受診している。緊急時等は職員が付き添い受診し、家族に連絡をとっている。看護師が毎週訪問し健康管理し、協力医療機関と連携構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師が勤務している。適切な受診が受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、病院やご家族に連絡し、病状の把握と早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「急変時の対応について事前意思確認書」をもとに説明、同意を得ている。事業所としてできることを伝えている。	入居時「重度化した場合・緊急時の対応」について意思確認書を交わしている。状態変化で主治医から説明時は管理者・看護師が同席し看取り希望の場合、事業所で出来ること出来ない事を説明し想いに沿って穏やかな最期を迎えられるよう支援している。今年は1名看取り「此处で良かった」と言葉をもらった。看取り介護指針・マニュアル・手順を整備し研修・勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルをスタッフルームに掲示し、すぐ目につくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の案内をお便りでお知らせしている。夜間想定を含めた避難訓練を年2回行っている。非常時の備蓄として水、缶詰、粥等を準備している。	年2回の消防避難訓練を行っている。消防署立ち合いで避難・通報・消火訓練を行い23名が参加し、地域住民に見守りの協力要請をしている。緊急時連絡網を整備し、備蓄用品を3日分倉庫に完備し定期点検を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を実施し、利用者の人格の尊重、挨拶の大切さ、言葉かけの方法を伝えている。	日常生活ケアに於いて「言葉遣い・言葉かけ」を一番大切にして、気付いたスタッフが、全員で互いに注意しあい現任教育を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の意思や思いをくみ取り、ケアプランにあげることを意識している。また、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを意識し、サービスを提供することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族に好みや今までの習慣などを聞きながら、少しでもその方らしい身だしなみやお洒落ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外部の業者より食材とメニューが納品され、各階で職員が調理している。 テーブル拭きや片付けなどできることをしてもらっている。	朝は夜勤者がご飯と味噌汁など作り昼・夜は業者から食材とメニュー・作り方が届き職員が調理している。皆食べることを好み食事レク・おやつレク(お好み焼き・ホットケーキ・手作りケーキ)おせち料理から始まり毎月誕生日会や行事食で敬老会・クリスマス会など目先を変え重箱や幕の内楽しんで食欲も旺盛になる。駐車場でお茶会(抹茶と和菓子)の企画もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量の記録を生活記録に記載し把握している。 決められた時間以外にも対応するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと利用者、ご家族の希望により週1回の歯科往診による口腔ケアを提供している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「生活記録」で排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう、一人一人に合わせた声掛け、見守りを行い、トイレで排泄できるように努めている。	ベッド臥床・車椅子の利用者にもトイレまで声かけ誘導し、便座に座る事を基本に清潔ケアを行っている。病院退院後は声かけで直ぐにリハビリパンツになっている。夜間は1時間毎の巡視で安眠を重視し、3時間毎に個別にパット交換やトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように水分摂取量を把握している。 また、医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽は3方向で対応できる。 週2回を基本に午前中に入浴している。 曜日は決めているが体調に合わせて調整している。	入浴チェック表で3日毎に入浴、嫌がる利用者にも声かけの工夫や話をしながら浴室まで案内すると浴槽でゆったりされている。職員は日常会話をしながら見守りしている。重度の利用者は二人介助やシャワーチェアで安全に入浴支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間にこだわらず、利用者の生活習慣に合わせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り利用者を楽しんでもらえる時間の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止している。 病院受診は家族に同行してもらっている。	コロナ禍前は公園や事業所周辺を毎日散歩や商店街まで買い物外出していたが自粛している。他科受診帰りに車でドライブしたり、駐車場でお茶や落ち葉拾いなど、毎日の外気浴はリビングルームの窓辺にソファを置き景色を観ながら気分転換している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意向により、ご家族の同意を得た上で小遣い程度の金額を利用者が所持している。 基本的に金銭管理は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、直接電話をしてもらえるように支援している。 携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行い、季節を感じてもらえるようにしている。	感染対策に留意し、共用場所の拭き掃除と換気、光触媒除菌・脱臭機を設置、手洗い励行している。食後は転倒予防の為、床の清掃を直ぐにしている。リビングルーム・廊下から空や山並みを間近に観られ今は秋の紅葉で季節感満載である。クリスマス時期はモニュメントを玄関に飾るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしてもらったり、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持ち込んでもらうなど居心地良く過ごせる工夫をしている。	電動ベッド・エアコン・洗面所・クローゼット・防災カーテンが備え付けで、入居時に安心である。自宅からテレビ・仏壇・家族写真を飾り、好きな装飾品を持参したり、部屋で編み物をするなど個々に自分らしく過ごせるよう安全に配置されている。窓から自然風景が観られ風通しも良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室がわかりやすいように標示をしている。 安全にできるだけ自立した生活が送れるように努めている。		